

## 10月26日(土)

おはようございます。

修学旅行での話です。あるクラスに不登校気味の生徒が二人いて、修学旅行に来てくれるかを担任の先生は心配して、ものすごくケアをしていました。私もそのことを知っていましたから心配していました。担任の先生はいろいろ考えに考えて、その二人を同じ二人部屋に組んであげたのです。そうしたら二人とも修学旅行に来ることができた。私も嬉しかったです、なぜ来られたのかというと、修学旅行が楽しみということももちろんあったでしょうが、「自分が行かなくて、あの子が辛い思いをしたらいややなあ」と思ったからだというのです。二人ともそう思ったというのです。それを聞いて私はとても嬉しかったです。

今から六年くらい前の話ですが、特定非営利活動法人「J E N」の木山啓子さんに、生徒に聞かせたらいいお話はありませんかと尋ねました。

すると、スリランカで津波が発生したときの、ある家族のお父さんの話をしてくれました。その津波の起こる前の年に、お父さんはイラクに出稼ぎに行っており、家族は「イラクはテロもあるし危険だから」と大変心配をしていた。しかし「お金が要るし、危険だからこそお金になる」と言って出稼ぎに行った。「一年で帰ってきてね」と家族は願った。電話では高いからとお父さんと手紙でやりとりをして、あと半年、あと三ヶ月、あと一ヶ月と待ちに待って、ようやく帰って来た。家族みんなでよかったと喜んだ。しかしそれも束の間のことで、その一週間後に大きな津波がきて、お父さんを残してみんな死んでしまった。家族のために、イラクへ命がけで出稼ぎに行き、帰ってきたら家族みんな死んでしまった。その地で「J E N」が援助活動を行っていた。彼らが絶望しているそのお父さんを無理矢理引っ張り出したときに、たまたま自分の子どもと同じくらいの子どもの、家族全員を津波で亡くした男の子がいた。そうしたら、お父さんはその子のために生きようとしたのです。あなたたちより私のほうが、この子の気持ちはわかるからと。お父さんはその子の世話をしていくなかで、自分自身を立て直していった。その後は、赤の他人だけれども、親子みたいに親しかったという。木山さんは私に、人間は究極の状態は「利他」だと言われました。

今回、修学旅行で二人の生徒が来るか来ないか、先生方が心配するなか、二人とも来られた。来ることができたのは、もちろん修学旅行の楽しみということもあるけれど、自分が行かずに、相手の子が一人になって悲しい思いをしたら、いやだなと思ったからだとい

う。

この二つの話から考えられる、人間の本質は「利他」であるというのは本当なのだと思います。「利他」だからこそがんばれるのですね。自分のためであれば来られないけれど、相手が一りぼっちなりさみしい思いをしたらいやだ、自分もそうだからよくわかるし、そういうことは辛抱できないからがんばって行こうとなる。ここでは人の思いを想像するという想像力が働いている。だから、どんなしんどい経験も人の気持ちを思いやる想像力の基盤になるのです。つらい経験も、うまくいかないという経験も、決して悪いことではないのです。だから失敗から学ぶことができるのです。

そういう意味で、人の本質は「利他」だなと思うのです。「利他」だからこそがんばれるのだと思います。自分のことが手一杯で他の人のことは見る余裕がないという人は、自分に集中している視線を変えられるかどうかが大切なのです。そのことが自分のスケールを大きくしたり、生きて行く力をもたらしたりするからです。清風の場合は「自利利他」ですが、しっかり自分を高めて利他の気持ちを持ってほしいと思います。

修学旅行でそういうことを感じましたのでお話しました。今朝の話はこれで終わります。

学校長